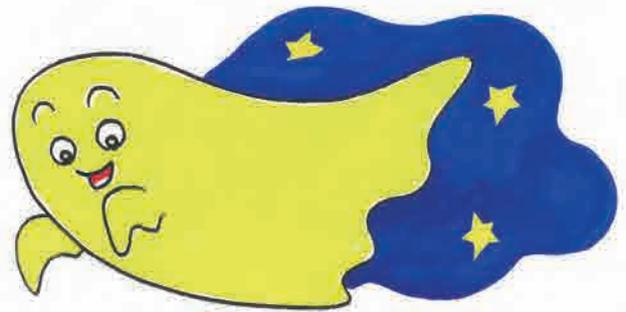


目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (ことば編)
- 3 童 謡 われは海の子
- 4 回 文 夜出るよ
- 5 今月の詩 夏の日之歌 中原中也
- 6 たし算 5の段
- 7 ことわざ 花より団子 早起きは三文の得 必要は発明の母
火のないところに煙は立たぬ
ひょうたんから駒が出る
- 8 かけ算 6の段
- 9 俳 句 与謝蕪村 松尾芭蕉 正岡子規
- 10 かぞえうた 1挺 1本 1膳 (そろばん、うちわ、箸)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた よくふって
- 13 今月のうた 漢字の筆順
- 14 慣用句 心をくむ 命の洗濯 あごをだす
- 15 イメージトレーニング スティーム (第5話 木星探検)
(イメージしてみましょう)
- 16 おはなし ガリバー旅行記
- 17 漢 詩 舟中にて元九の詩を読む
- 18 百人一首 二条院讃岐 相模 藤原実方朝臣 前中納言匡房
- 19 復習コーナー
- 20 暗 示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

よるで
夜出るよ



よ	る	で	る	よ
---	---	---	---	---

なつ ひ うた
夏の日の歌

なかはらちゅうや
中原中也

あお そら うご
青い空は動かない、
くも ぎれ ひと
雲片一つあるでない。
なつ ま ひる しず
夏の真昼の静かには
たール ひかり きよ
タールの光も清くなる。

なつ そら なに
夏の空には何かがある、
いぢらしく おも わ なに
いぢらしく思はせる何かがある、
こ ず ぶと ひまわり
焦げて凶太い向日葵が
いなか えき さ い
田舎の駅には咲いてゐる。

じょうず こども そだ
上手に子供を育てゆく、
ははおや に きしや きてき な
母親に似て汽車の汽笛は鳴る。
やま ちか はし とき
山の近くを走る時。

やま ちか はし
山の近くを走りながら、
ははおや に きしや きてき な
母親に似て汽車の汽笛は鳴る。
なつ ま ひる あつ とき
夏の真昼の暑い時。



ことわざ

はな だんご 花より団子

みて うつく さくら はな はら
見て美しい桜の花よりも、おいしくて腹のふくれる
だんご
団子のほうがよい。名よりも実利をとること。



はや お さんもん とく 早起きは三文の徳

あさはや お
朝早く起きるとなにかしら良いことがあるものである。



ひつよう はつめい はは 必要は発明の母

はつめい ひつよう う
発明は必要から生まれる。



ひ けむり た 火のないところに煙は立たぬ

なん しじつ た
何らかの事実がなければ、うわさが立つはずがない。



ひょうたんから こま で ひょうたんから駒が出る

い がい い がい あらわ おも
意外なところから意外なものが現れたり、思いがけな
い結果になること。



俳句

ぼたんち うちかさ 二 三片
牡丹散って 打ち重なりぬ

よきぶそん
与謝蕪村



なつくさ つわもの ゆめ あと
夏草や 兵どもが 夢の跡

まつおばしょう
松尾芭蕉



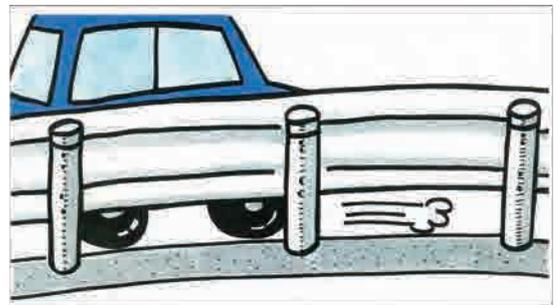
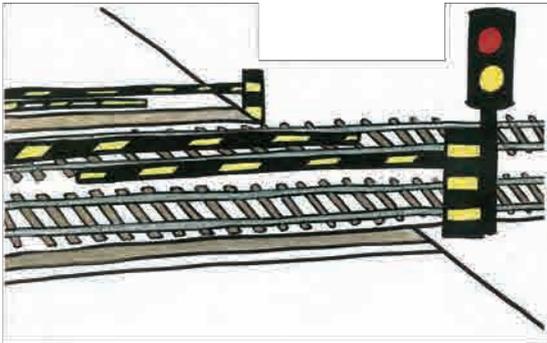
なつあらし きじょう はくし と 飛び 尽くす
夏嵐 机上の白紙 飛び尽くす

まさおかしき
正岡子規



なぜなぜ

- 1 走る^{はし}時^{とき}には止^とまって、走^{はし}らない時^{とき}は止^とまらなくていいものな^あに？
- 2 電車^{でんしゃ}も機^き関^{かん}車^{しゃ}も通^{とお}らない道^{みち}のはし^{はし}っこにあるレールはな^あに？
- 3 病院^{びょういん}でもないのに注^{ちゅう}射^{しゃ}をするぞ^ぞという場^ば所^{しょ}はどこでしよう？
- 4 前^{まえ}を^{とお}通^{とお}っただけで、お^おか^{わら}しくて笑^{わら}いたくな^なっちゃ^{ちやう}うお^お店^{みせ}はな^あに？



手あそびうた

《よくふって》

- ① みぎてまえに ② みぎてうしろに ③ もいちどまえに ④ よくふって



みぎ^て手を
まえにだす



みぎ^て手を
うしろにだす

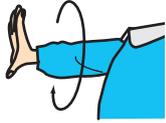


もういちど
まえにだす



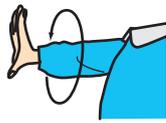
みぎ^て手をふる

- ⑤ ぐるりと
まわして



みぎ^て手を
まわす

- ⑥ はんたい
まわして



はんたいに
まわす

- ⑦ ラララララ



りょう^て手をきらきら
させながら、上^{うえ}にあげる

- ⑧ ランランラン



3^{かい}手をたたく

- ⑨ ひだりてまえに
ひだりてうしろに
もいちどまえに
よくふって
ぐるりとまわして
はんたいまわして
ラララララ
ランランラン

ひだり^て手にかえて、
①～⑧とおなじように
うごかす

- ⑩ みぎあしまえに
みぎあしうしろに
もいちどまえに
よくふって
ぐるりとまわして
はんたいまわして
ラララララ
ランランラン

みぎあしにかえて、
①～⑧とおなじように
うごかす

- ⑪ ひだりあしまえに
ひだりあしうしろに
もいちどまえに
よくふって
ぐるりとまわして
はんたいまわして
ラララララ
ランランラン

ひだりあしにかえて、
①～⑧とおなじように
うごかす

今月のうた

《漢字の筆順》

かんじ ひつじゆん し
漢字の筆順 知ってるかい

かんじ きほん ふた
どんな漢字も 基本は二つ

うえ した ひだり みぎ
上から下へ 左から右へ

つき げん そく
次の原則

たて よこ なら よこ さき (大きい)

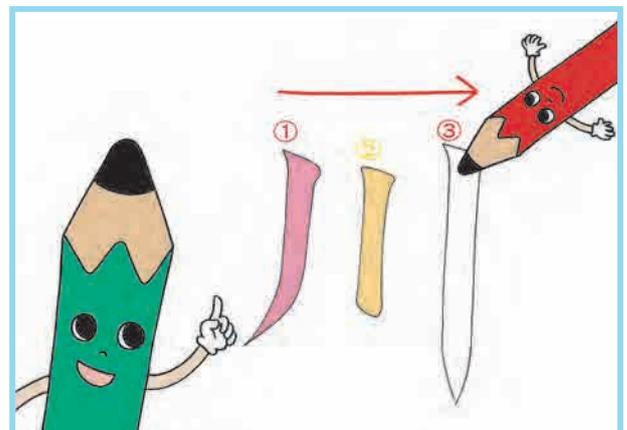
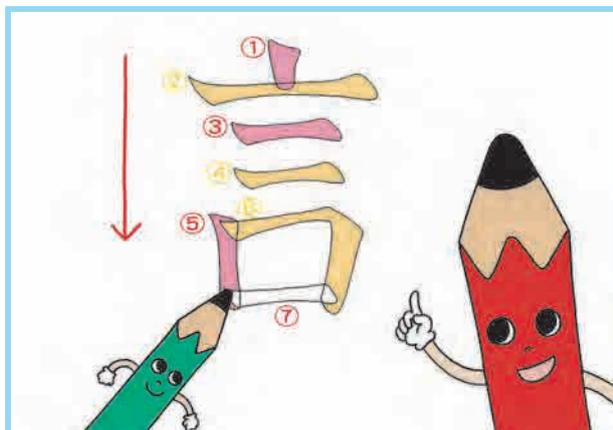
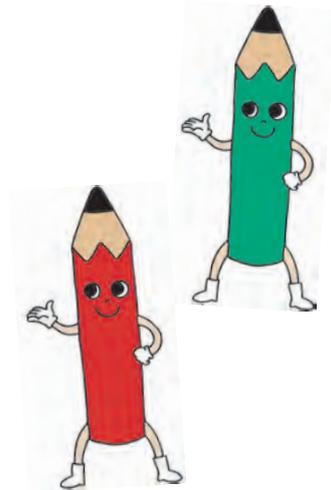
なか そと なら なか さき (小さい)

そと うち なら そと さき (同じ)

ひだりばら みぎばら ひだりばら さき か
左払いと右払い 左払いを先に書く

さいご か つらぬ たてせん つらぬ よこせん
最後に書くのは 貫く縦線 貫く横線

れいがい
例外もあるよ



こころ

心をくむ

あいて 相手のきもちをりかいする。



いのち せんだく
命の洗濯

ひごろ くるう わす ため 気晴らしをする。

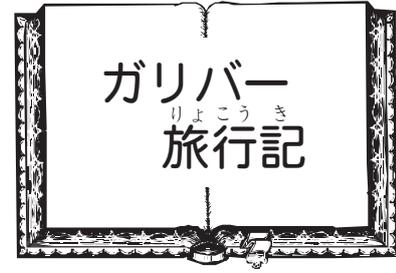


あごをだす

たいへんつか 大変疲れる。

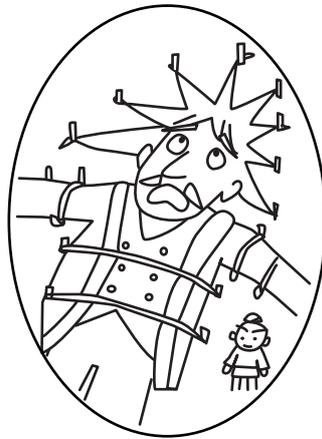
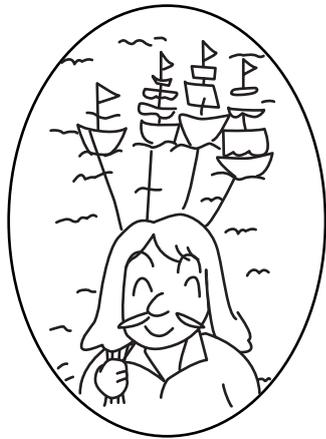


おはなし



「ガリバー旅行記」は、船が沈みこびどの国にたどりつ
いた人間のお話です。
お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 船は、なぜ沈んでしまいましたか。
- 2 ガリバーが着いたのは、どんな島でしたか。
- 3 ガリバーは、恩返しに何をしましたか。
- 4 王様はガリバーのために、何をしましたか。



舟中しゅうちゅうにて元九げんきゅうの詩しを讀よむ

白居易はくきよい

君きみが詩卷しかんを把とりて

灯前とうぜんに讀よむ

詩し尽つき灯とも残しびりて

天てん未いまだ明あけず

眼め痛いたみ灯ともを滅けして

猶なお闇坐あんざすれば

逆風ぎやくふう浪なみを吹ふきて

船ふねを打うつ声こえ



百人一首

わが袖は
潮干に見えぬ
沖の石の
人こそ知らね
乾く間もなし

(二条院讚岐)

恨みわび
干さぬ袖だに
あるものを
恋に朽ちなむ
名こそ惜しけれ

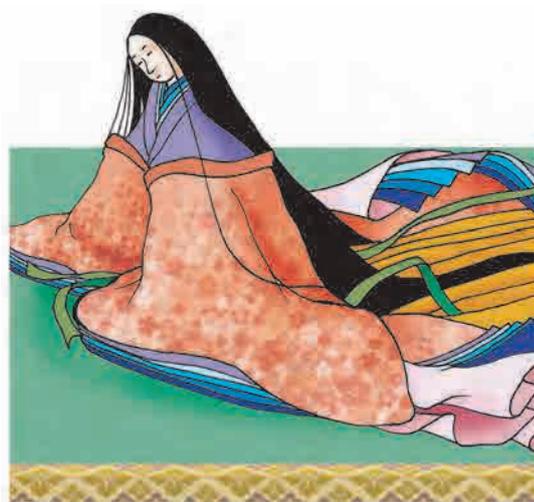
(相模)

かくとだに
えやはいぶきの
さしも草
さしも知らじな
燃ゆる思ひを

(藤原実方朝臣)

高砂の
尾上の桜
咲きたけり
外山の霞
立たずもあらなむ

(前中納言匡房)



相模